

14  
248

# 帝國憲法

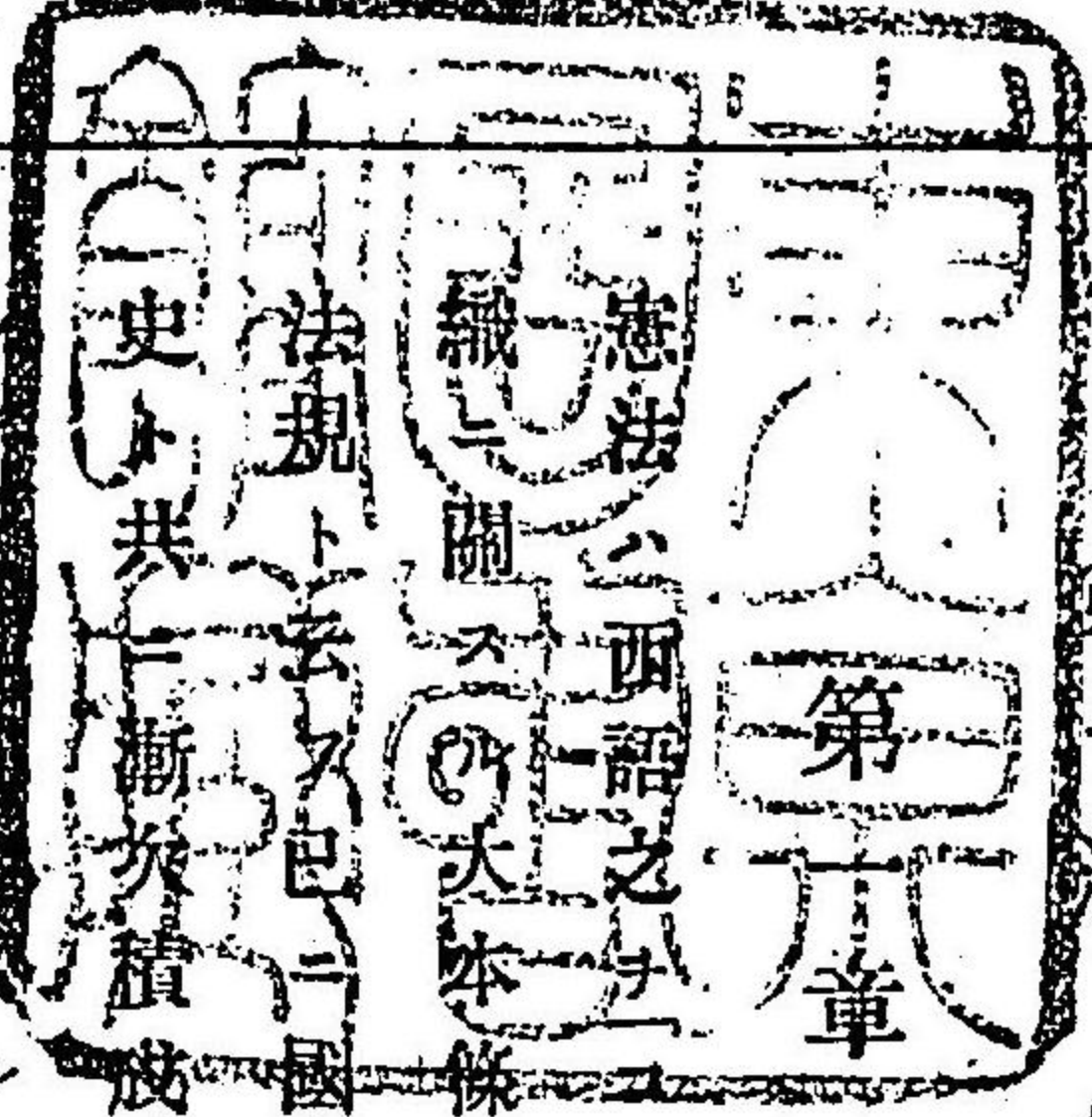


法學士 長島鷺太郎講述

專修學校

## 第一編 總論

### 憲法ノ本義



憲法ニ西語之ナリ  
 組織ノ關係ノ大本條規ノ謂ナリ學者亦之ヲ稱シテ主權ノ存在及ヒ行使ニ關スル  
 法規トシテ自ニ國アリ民アリ何ノ時カ憲法勿ラン然レトモ此憲法ヤ一國ノ歴  
 史ト共ニ漸次積成シテ一種ノ不文法ヲ成スモノアリ特定ノ時ニ一部ノ成典ト  
 シテ之ヲ制定スルモノアリ然ルニ此成典ヤ素ヨリ國家ノ組織ニ關スル大本條  
 規ヲ擧ケ盡ス可カラサルヲ以テ茲ニ憲法ニ二様ノ意義ヲ生ス曰ク弘義ノ憲法  
 曰ク狹義ノ憲法是ナリ蓋シ狹義ノ憲法トハ憲法成典ヲ稱スルモノニシテ而シ

テ弘義ノ憲法トハ國家ノ組織ニ關スル一切ノ大本條規ヲ稱スルモノナルヲ以テ憲法成典ハ勿論苟モ國家ノ組織ニ關スルモノハ法律命令其他何等ノ名稱ヲ用ユルニ拘ハラズ悉ク此中ニ包含スルモノト知ルヘシ要スルニ此區別ハ憲法成典アリテ始メテ生スルモノナレハ英國ノ如キ不文法ヲ以テ憲法ト爲スノ國ニ於テハ素ヨリ此區別ヲ立ツルノ必要ナシ之ニ反シ我國ノ如キ成典憲法ヲ制定シタル國ニ於テハ此弘狹ニ樣意義ヲ區別スルノ必要アリトス故ヲ以テ例ヘハ議院法選舉法ノ如キ其形式ヨリ云ハ、一種法律ナルコト素ヨリ論ヲ俟タスト雖モ此等ノ法律ハ或ハ議院ノ作用ニ關シ或ハ議員ノ選舉ニ關スル等專ラ國家ノ組織ニ關スルノ大本條規ニ外ナラサレハ名ハ法律タリト雖モ其實憲法ナリ但シ之ヲ憲法成典中ニ規定セサルモノハ凡ソ憲法ノ改正ハ法律ノ改正ニ比シ頗ル困難ナルニ拘ハラズ議院ノ作用及ヒ議員選舉ノ方式ノ如キハ時ノ宜キニ從ヒ之ヲ變更セサルヘカラサレハ殊更ニ之ヲ憲法成典ニ加ヘスシテ法律ノ名ヲ冠シテ發布シタルニ過キス之ニ反シ名ハ憲法タリ其實國家ノ組織ト毫モ關係セサルモノ、如キハ茲ニ所謂憲法ノ義ヲ以テ解スヘカラス例ヘハ聖德太子ノ憲法十七條ノ如キ名ハ憲法タリト雖モ是唯ニ倫常ノ訓戒ニ過キサレハ素ヨリ我憲法成典ト同一ノ比ニ非サルナリ

## 第二章 國家及ヒ主權

已ニ憲法ノ定義ヲ下シテ曰ク國家ノ組織ニ關スル大本條規ナリト亦曰ク主權ノ存在及ヒ行使ニ關スル法規ナリト爰ニ於テ國家及ヒ主權ノ本義ヲ明カニスルノ必要ヲ生ス  
公法、私法ノ區別判明セサル時代ニアリテハ國家ニ關スル觀念ノ如キハ重ニ私法上ノ觀念ヲ以テセリ故ニ學者概ネ國家自體ニ權力ヲ認メスシテ之ヲ國家以外ニ求メタリ近時國家學ノ益、進歩スルニ及ヒ權力ニ關スル觀念ヲ國家以外ニ求メスシテ之ヲ國家本體ニ求ムルニ至レリ此ニ於テ李魯西國法學者ゲルベル氏ハ國家是法人ナルノ說アリ蓋シ法人トハ私法上法人ノ謂ニ非スシテ公法上法人ノ義ナリ故ニ財産上權利ノ主體ニ非スシテ政治的權力ノ主體ナリ國法學者ラハノド氏ハ亦ゲルベル氏ノ說ヲ祖述シ國家ヲ以テ一ノ法人體ト稱セリシ

ユルツエー氏ハ更ニ國家ヲ解シテ曰ク最上權力ニ依リ公共ノ目的ノ爲メニ結合シタル人民ノ有機的團體ナリ而シテホルンハツク氏ハ更ニ曰ク國家是最上統御ノ力ナリト要スルニ此三説ハ皆國家ヲ抽象的ニ解釋シタルモノニシテ而シテ其説ク所相甲乙アルヘシト雖モ從來國家チ一箇ノ物件視シタルノ學說ニ比スレハ實ニ百尺竿頭一步ヲ進メタルモノト云フヘシ要スルニ苟モ國家タルノ性質ヲ有センニハ須ラク左ノ數箇ノ要件ヲ具ヘサルヘカラス

第一 國家ハ人類ノ集合タラサルヘカラス

第二 國家ハ一定ノ土地ニ永續ノ關係ヲ有セサルヘカラス

第三 國家ハ意思及ヒ威力ノ統一ヲ有セサルヘカラス

第四 國家ハ他ノ意思及ヒ威力ニ服從セサルヘカラス

主權ナル語ハ夙ニ我邦人ノ慣用スルノ語ナリ是實ニ原語ノ「スプレマボテスタス」即チ最上權ヲ意譯シタルニ外ナラス而シテ此語ヲ用非タルハ始メテ佛蘭西ニアリトス蓋シ當時主權ナル語ハ唯ニ國際法的ニ用非タルモノニシテ所謂他力ニ服從セサル獨立ノ權力ノ意義ニ過キサリシモ後王權漸ク強大ナルニ至リ

主權ハ亦内部ニ對スル無制限ノ權利ナルノ意義ヲ生スルニ至レリ

## 第二編 國家ノ原素

### 第一章 統治ノ主體

#### 第一 建國ノ沿革

神武日向ヲ出テ都ヲ大和ノ橿原ニ定メ玉ヒシヨリ以降爰ニ二千五百有餘年代ヲ重ヌル百二十一皇統一系變ルナシ史家ハ稱シテ異朝無類ト云フ然レトモ若シ歴史ヲ緝キ玉權消長ノ跡ヲ尋ヌレハ神武即位以テ今日ニ至ル實ニ三大變遷ヲ經タリ

#### 第一 武神即位ヨリ鎌倉霸業ニ至ル

神武東征ノ議ニ曰ク此瑞穗之國我祖宗之所受於天而運屬草昧居狀西偏多歷年所願此四方未霑王澤遂使邑有君村有長各相陵轢莫之能統一吾聞東方有美地山岳四周足以恢弘大業有饒速日命稱出我祖支屬爲長隨彥者所推先據有此吾將掃

蕩定都焉遂經營四方トハ以テ我大和民族建國ノ由來ヲ知ルニ足ラン歟神武三種ノ神器ヲ奉シテ即位ヨリ以テ近江奈良ノ朝ニ至ル此時朝廷ノ法制大ニ備ハリ王權ノ隆盛前古比ナシ藤原氏世々外戚ヲ以テ政柄ヲ執ルニ及ヒ王政下ニ移ルノ端ヲ啓キ遂ニ鎌倉ノ霸業ニ至ル

第二 鎌倉霸業ヨリ王政維新ニ至ル

源賴朝霸業ヲ樹テ封建ノ制ヲ創メテヨリ以來王權漸ク武臣ニ移ル北條氏源氏ノ遺業ヲ守ルコト七世時ニ兩統更立ノ議ヲ定ムルモノアリ後醍醐中興ノ業ハ中道ニシテ頽レ南北兩朝皇位ノ争ハ一國二君ヲ戴クノ姿アリシモ史家ハ南朝ヲ尊ンテ正統ノ天子ト稱ス足利氏ノ末世政ヲ失ヒ群雄四方ニ割據スルノ時代トナレリ此時皇綱全ク衰ヘ獻資ニ依リテ以テ即位ノ禮ヲ行フニ至ル豊臣氏四分五裂ノ天下ヲ一定シ徳川氏其功ヲ收メテ昇平二百年以テ大政ノ返上ニ至ル

第三 王政維新ヨリ憲法發布ニ至ル

維新ノ革命ハ我帝國歴史ノ特筆大書スヘキモノ已ニ明治元年ノ詔ニ曰ク弘シ會議ヲ起シ萬機公論ニ決スヘシト遂ニ此大詔ニ基キ明治廿二年千古不磨ノ憲

法ヲ欽定セラレ以テ立憲君主國ノ基ヲ創ムルニ至ル

以上ハ我歴史ヲ編スル者カ常ニ以テ王政ノ三大變ト稱スルモノナリ然リ而シテ藤原氏平氏相續テ政權ヲ專ラニシタルハ外戚タルヲ以テノ故ニ外ナラス誰カ鎌倉霸業ニ至ル迄主權ノ常ニ王室ニ存シタルヲ疑フモノアラシヤ鎌倉霸業後王室ハ虚器ヲ推シタルヲ以テ人或ハ主權ノ存在ニ疑ヲ懷クモノアリ泰西ノ憲法學者ヲシテ當時ノ大内及ヒ幕府ニ擬スルニ二君政治ヲ以テスルモノアルニ至ル(ガ)ライイス國法汎論ニ見ユ然レトモ官位ノ宣下ノ如キ常ニ朝廷ノ制ヲ受ケタルヤ明カニ武臣ノ征夷將軍毫モ文臣ノ攝政關白タルニ異ナルナシ關東ノ稱シテ公方ナルモノ所謂東ノ代官タルニ過キス之ヲ彼ノ漢土ノ如ク厲王姓ヲ代ヘ歐米諸國ノ如ク幾度カ政體ヲ變シ以テ今日アルニ比スレハ素ヨリ同一日ニ論スヘカラサルナリ

第二 天皇

天皇トハ我日本帝國君主ニ對スルノ特稱ナリ支那ニ於テ皇帝ト號シ魯西亞ニ於テツァールト稱スルモ均シク一國君主ニ對スルノ特稱ニ過キス名稱ノ差異

以テ其法理上ノ意義ニ何等ノ變動ヲ及ホサ、ルナリ  
 憲法學者ニユルツエ、氏君主ナル語ヲ解シテ曰ク自己固有ノ權ヲ以テ國權ノ  
 主體ト爲レル自然人ナリト是實ニ立憲國君主ニ擬スヘキノ意義ナリト謂フヘ  
 ク以テ君主ハ統治ノ主體タリ統治ノ機關ニ非サルヲ知ルニ足ル  
 賢明ナル字魯西國王フレデリック大王曰ク朕ハ國家最高ノ官吏ナリト是唯人  
 主謙讓ノ言而已以テ立憲國君主ニ擬スヘキ適切ノ意義ト稱スヘカラス寧ロ佛  
 蘭西革命黨カ目シテ暴君ト稱スル路易十四世カ朕ハ國家 (L'etat c'est moi) ナリ  
 トノ言ノ當レルニ如カス若シ夫レ君主ヲシテ統治權ヲ執行スル國家最高ノ官  
 吏ナリト云ハンカ是實ニ兆民思ヒ國君行フト稱スル國民主權國ノ行法官ニ擬  
 スヘキ而已  
 憲法第一條ニ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス及ヒ其第四條ニ天皇ハ  
 國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フトアルヲ見レハ  
 天皇ハ統治權ノ主體タルコト明カナリト謂フ可シ但シ其所謂統治權トハ一國  
 内ニ於テ最上無限ノ權カヲ稱スルモノナレハ尙モ一國ニアルモノハ何人タリ

ト雖モ此權カニ拮抗ス可カラズ然レトモ立憲國天皇ハ必スシモ無制限ニ此權  
 カヲ行ヒ得ヘキモノニ非ス即チ憲法第四條ニ於テ天皇カ統治權ヲ總攬スルヲ  
 規定スルト同時ニ此統治權ハ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フヘキコトヲ規定セリ  
 是レ實ニ憲法ヲ以テ天皇大權ノ施行ヲ制限シタルモノト言ハサルヘカラス論  
 者或ハ曰ク凡ソ人ノ行爲ヲ制限スルハ其上位ニ在ル者ノ意思ニ依ルニ非サレ  
 ハ能ハス又尙モ制限ヲ設クル以上ハ此制限ヲ超ヘタルノ行爲ニ對シ適當ノ制  
 裁勿カルヘカラス然ルニ君主國ニ於テハ君主ノ上位ニ立ツヘキ者アルヘキ理  
 ナク且君主ノ違憲行爲アルモ素ヨリ制裁ヲ加フヘキノ道ナシ此ヲ以テ見レハ  
 憲法ハ唯天皇ノ權カヲ確保シタルニ過キス之ヲ以テ天皇ノ大權ヲ制限スルモ  
 ノニ非スト論者ノ言ノ如クシテ立憲君主國ノ實何處ニカアル蓋シ專制君主國  
 ト立憲君主國トノ差ハ君主カ憲法ノ條規ニ依リ大權ヲ行フヤ否ヤニアル而已  
 況ヤ我國ノ憲法ノ如キハ素欽定ノモノニシテ畢竟天皇躬ヲ大權ヲ施行シ玉ハ  
 セラルルハ方式ヲ定メテ之ヲ行フモノナリ而シテ天皇此方式ニ依ラサル行爲アラ  
 セラルルト雖モ素ヨリ最上無限ノ權カヲ有スル天皇ニ對シテ制裁ヲ施スヘキ

道ナシ然リト雖モ天皇陛下カ苟モ此欽定憲法ヲ廢セラレサル間ハ此憲法ノ條規ニ依ラレタル行爲而已立憲國君主ノ行爲ト認ムヘク此憲法ノ條規ニ依ラセラル、行爲ハ是レ實ニ天皇一人ノ行爲ト謂ハサルヘカラス

### 第三 天皇無責任付巨責任論

天皇ハ萬民ヲ統御セラル、至高至尊ノ地位ニ在ス隨テ天皇ハ臣民ニ異ナリタル待遇ヲ受ケサルヘカラス是レ實ニ皇位ノ尊嚴ヲ保ツニ必要ナリトス之ヲ以テ歐洲憲法ニ於テハ或ハ天皇ヲ以テ神聖トシ不可侵トシ無責任トス我憲法第三條ニモ亦天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラストノ語アリ蓋シ神聖ノ語ハ敢テ法律上ノ意義アルニ非スシテ不可侵ナル語ノ原因ヲ示スニ過キサルナリ而シテ天皇ハ神聖ニシテ不可侵ト云ハ、茲ニ二様ノ意義ヲ生ス可シ一ハ天皇ハ神聖ニシテ不可侵ヲ以テ天皇ノ神聖ヲ侵カスノ所爲ヲ嚴禁スルコトニシテ一ハ天皇ハ神聖ニシテ不可侵ヲ以テ天皇ハ其行爲ニ關シ帝國内如何ナル權利者ヨリモ責問セラルコトナキコト是レナリ

天皇ノ無責任トハ唯法理上無責任ナルノ義ニ過キズ抑天皇ハ國家統御ノ大任

ナ有セラル、以上ハ天皇ハ必スシモ無責任ニアラスシテ其責任ハ却テ大ナリト謂ハサルヲ得ス然レトモ此責任ハ天皇カ神明ニ對シ良心ニ對シ公議輿論ニ對シ千載ノ歴史ニ對シテ有スルモノニシテ即チ道義上ノ責任タルニ過キス而シテ今天皇カ無責任ヲ論スルニ當リテハ其行爲カ國家ノ行爲タルト一私人ノ行爲タルトニ由リ之ヲ二様ニ分チテ論スルノ要アリ

#### 甲 政治上無責任

天皇ハ統治權ノ主體ニシテ至高至尊ノ地位ニ在セハ他ノ權力ニシテ此ニ尙フヘキナシ故ニ天皇カ統治ノ主體トシテ行ヒタル行爲ニ關シテハ其無責任タル固ヨリ論ナ俟タス今假ニ天皇責任アリトセン乎即チ天皇ノ上位ニ立チ天皇ハ責問シ得ルノ權力ナカルヘカラス是レ實ニ天皇政治上無責任論ノ據テ出ツル所以ナリ然レトモ若シ此原則ヲシテ無制限ニ實行シ得ルトセハ其弊ヤ時ニ君主ヲシテ專制ニ流レシムルヤモ亦未タ知ルヘカラス爰ニ於テカ歐洲ノ立憲國ニ於テ大臣責任ノ論起ル

#### 乙 法律上無責任

法律ハ主權者之ヲ行フニ制裁ヲ以テス可ク而シテ天皇ハ此ノ制裁ヲ行フノ主權者ナリ制裁ヲ行フ者ハ自ラ其制裁ニ服スヘキ理由ナシ故ニ例ヘハ君主一人ノ行爲トシテ他ノ臣民ト等シキ刑法上ノ犯罪アリト雖モ君主固ヨリ刑法ノ制裁ヲ受クヘキミアラス憲法學者グイルマン氏言アリ帝王ニシテ刑法上ノ責問ヲ受クヘシトセハ君主ハ到底其尊嚴ヲ保ツ能ハサルヘシト

天皇ノ無責任論ハ已ニ上來之ヲ陳ヘタリ而シテ天皇ハ神聖不可侵ヲ保シ及ヒ皇位ノ尊嚴ヲ保ツカ爲メニ外來ノ襲撃ヲ嚴禁シタリ蓋シ皇位ハ至尊至高ナリ君主ノ身ヲ危スルノ所爲ハ是レ實ニ社稷ヲ危フスルモノナリ亂臣賊子至尊ヲ冒瀆ス大逆無道之ヨリ大ナルハナシ故ニ弑逆ヲ企テ或ハ不敬ヲ加フルノ所爲ハ素ヨリ之ヲ嚴罰シテ尊嚴ヲ冒瀆スル勿ラシム我刑法第一百條以下及ヒ第二十一條ニ規定スルモノ即チ是レナリ

天皇政治上ノ行爲ニ關シテ無責任ナルコトハ已ニ述フル所ナリ如シ天皇ハ國家ナリ天皇ノ意思ハ即チ國家ノ意思ナリ然レモ國家カ其意思ヲ發表スルニ當リテハ一ニ憲法ノ條規ニ從ハサルヘカラス故ニ憲法條規ニ從ヒテ天皇ノ行

爲而已國家ノ行爲ト認メ得ヘク其憲法ノ條規ニ從ハサザ行爲ヲ如キ是レ唯、君主ノ私人ノ行爲ニ過キズシテ國家ノ行爲ト認ムルニキニテラス尙ホ之ヲシテ政治無責任ナリト謂フカ如キハ遂ニ君主ヲ專制ニ陥ラシムルヲ恐アリ茲ニ於テカ天皇責任及ヒ大臣副署ノ論起ル而シテ歐米諸國ノ憲法ニ於テハ大臣責任ヲ論スルモノ實ニ英國ヲ以テ嚆矢トス英國ノ法語ニ *The King can not wrong* 王者不爲惡ノ語アリ然レトモ此推定ハ實ニ人間ノ天性ニ適合セサル而已ナラス英國ノ歴史上時ニ反對ノ事實ヲ現出シタルカ爲メニ英國ニ於テ夙ニ大臣副署ノ制ヲ定メ以テ大臣ノ責任ノ有無ヲ判シタリ而シテ此原則ハ遂ニ代議制及ヒ立憲制ノ諸國ニ採用セラレタリト雖モ其原理ニ關シテハ學者間數説アリ即チ左ノ如シ

第一、君主ハ素人間ナリ必スシモ違憲ノ行爲ヲ爲シ能ハサルナシ然レトモ君主ハ素神聖不可侵ノ故ヲ以テ他人ヲ代リテ其責ニ當ラシム是レ大臣責任ハ依テ起ル所以ナリ(ピシヨッフ氏)

第二、君主ハ素ヨリ違憲ノ行爲ヲ爲スナ思ハス然ルニ偶違憲ノ行爲アル所以ノ

モノハ輔弼ノ責アル大臣カ之ニ忠言ヲ進メサルニ因ル故ニ大臣宜シク不忠ノ責ニ任スヘシ(ハウケー氏)

第三君主ハ形式上政權ヲ行フニ過キス事實政權ヲ執行スルモノハ大臣ナリ故ニ違憲ノ行爲ニ關シテハ政權ヲ執行シタル大臣宜シク其責ニ任スヘシ(コンスタン氏)

第四君主素ヨリ違憲ノ行爲ヲ爲シ得ヘシ然レトモ天皇ノ身體ハ不可侵ナリ以テ君主素ヨリ責問ヲ受クヘキノ理ナシ而シテ大臣カ副署シタルハ君主違憲ノ行爲ヲ贊助シタルニ外ナラサレハ大臣自己ノ罪ニ對シ其責ニ任スルニアリ(ホルンハツク氏)

以上四説ハ共ニ大臣ノ責任ヲ論スルモノナリト雖モ其論據トスル所ニ至リテハ各異ナリ蓋シ第一説ニ基ツカハ無辜ニシテ尙ホ且ツ責ヲ負フヘキ不理ニ陥リ第三説ニ隨ハ、天皇ハ實權ヲ有セストシ憶測ヲ下サ、ルヲ得ス唯第二説及ヒ第四説ノ如キ議論ニ至リテハ較正鶴ヲ得ルニ似タリ而シテ我憲法第五十五條ニ國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ストハ庶クハ此二説ヲ以テ解スルニキ

カ

第四 天皇ノ特權

天皇ハ統治權ヲ總攬ス故ニ立法、司法、行政ノ事業一トシテ源カ天皇ノ大權ニ發セサルナシ然レトモ天皇此大權ニ基カスシテ特ニ皇位ニ基キ臣民ト異ナリタル地位ヲ有スルコトアリ之ヲ稱シテ天皇ノ特權ト云フ即チ榮譽權、財產權及ヒ家長權是レナリ

甲 榮譽權

皇位ノ尊嚴ヲ保ツカ爲メニ天皇ハ一定ノ敬稱ヲ受ケ一定ノ表章ヲ有シ及ヒ一定ノ儀仗ヲ有ス之ヲ稱シテ天皇ノ榮譽權ト云フ  
天皇ニ對スル敬稱ヲ陛下トス是レ皇室典範第十七條ニ規定スル所ナリ蓋シ此敬稱ハ天皇ニ限リ之ヲ臣下ニ用ユル能ハサルナリ而シテ天皇ハ亦一定ノ徽章ヲ有ス一般臣民ヲシテ同一ノ徽章ヲ用ユル能ハサラシム即チ菊御紋ハ我皇室ノ徽章ニシテ法律ヲ以テ一般臣民カ同一ノ徽章ヲ用ユルヲ禁シタリ蓋シ其法律トハ明治四年六月十七日御布告ナリトス



菊御紋禁止ノ儀ハ兼而御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外  
 總テ被禁止候尤モ御紋ニ紛敷品相用候義モ同様不相成候條相改可申事  
 但從來諸社ノ社頭ニ於テ持來候分ハ地方官ニ於テ取調可申出事  
 又三種ノ神器ノ如キハ古來皇位ノ表章ナルコトハ已ニ歴史ヲ讀ムモノ、知ル  
 所ナリ蓋シ神武帝鏡劍璽ヲ奉シテ即位セサレテヨリ以來神器ノ有ル所實  
 ニ正統天子タルヘキヲ以テ南北兩朝ノ争ヒノ如キモ南朝常ニ神器ヲ有シタル  
 ナ以テ南朝ヲ以テ正統ノ天子タリトス皇室典範第十條ヲ見ルニ皇嗣踐祚ト共  
 ニ祖宗ノ神器ヲ受クルヲ以テ神器ハ尙ホ今日ニ於テモ皇位ノ表章タルコトヲ  
 知ルニ足ル可シ  
 帝室ニ干スル私事ヲ整理スルカ爲メニ嚴然一省ヲ設クル如キモ亦天皇ノ尊嚴  
 ナ保ツニアリ即チ明治廿二年宮内省官制ヲ見ルニ其第一條ニ宮内大臣ハ帝室  
 ニ關スル一切ノ事務ヲ總判スル是レナリ蓋シ天皇カ其室ニ關スル家政ヲ整理  
 セラレサルカ爲メ職員ヲ設ケテハ素ト天皇一家ノ私事ニ屬シ國家ノ公事  
 ト認ムヘカラス隨テ宮内ノ官吏ノ如キ通常國家ノ官吏ト其性質ヲ同フスルモ

### 君主ノ無能

我皇室典範第五章第十九條ニ云ク天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク  
 天皇久シキヤ巨ルノ故障ヲ因リ大政ヲ親ラスルト能ハサルトキハ皇族會議  
 及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置クト今此規定ニ依テ見レハ如何ナル場合ニ攝  
 ナク總テ天皇久シク大政ヲ親ラスルト能ハサルトキハ攝政ヲ置クノ制度ナ  
 ルカ如シト雖モ唯漠然久シキニ直ル云々トアルナ以テ若シ實際斯ル場合ニ遭  
 遇スルコトアラハ頗ル困難ナラシト信ス現ニ外國ニ於テハ斯ル例ノ起リタル  
 コト抄ナカラス今アンソンの憲法ヲ見ルニ其第二卷ニ於テ英國皇帝ノ無能  
 ナル場合ヲ列舉セリ即チ第一皇帝ノ旅行第二未丁年第三精神ノ錯乱第四皇帝  
 ノ虛位等是ナリ而シテ第一ノ場合ハ皇帝自ラ攝政ヲ選任シ國務ヲ攝行セシメ  
 第二ノ場合ハ攝政令ニ依リ君父ヲシテ攝政ヲ選任セシメ第三ノ場合ハ皇太子  
 ナシテ攝政タラシメ第四ノ場合ハ國君ノ逃走又ハ廢王ノ時ニ繫ルナ以テ其先  
 例固ヨリ區々一定セスト雖モ往昔リチャード二世ハ自ラ議會ヲ招集シ其位ヲ  
 去ルヘキ旨ヲ宣示シ議會ノ贊成ヲ以テ遂ニ王位ヲ去レリ是ニ於テ議會ハ直ニ

新王ニ服従スルノ誓ヲナシタリ  
 攝政ヲ置ク所以ノ理由ハ他ナシ方今立憲制ノ國ニ於テハ皇位繼承ノ順次ニ當  
 ルモノ不幸ニシテ身體若クハ精神ノ不具ニ因リ政ヲ親裁スル能ハサルコトア  
 ルモ猶之ヲ皇位繼承ノ順次ヨリ除ク能ハサルヲ以テ若シ斯ル人ノ出テ、王位  
 ニ即クコトアラハ實ニ國家ノ大事ナルヲ以テ所謂攝政ヲ置キ之ニ委シテ國政  
 ナ攝行セシムルナリ今普魯西ノ憲法ヲ按スルニ同第五十四條ニ云ク國王未ダ  
 成年ニ達セサルカ又ハ久シキニ亘ルノ故障ニ因リ大政ヲ攬ル能ハサルトキハ  
 國王ノ最近親ナル男系ノ成年王族ヲ攝政ニ任ス此場合ニ於テ其王族ハ速ニ議  
 會ヲ招集シ合會(トハ貴衆兩院ノ合議會ヲ云フ)ニ於テ攝政ヲ置クノ必要如何ヲ  
 議決セシムト又同第五十七條ニ成年以上ノ男系王族ナク且豫メ此場合ニ處ス  
 ル法規ナキトキハ内閣ヨリ兩議院議員ヲ招集シ合會ニ於テ撰政ヲ選定セシム  
 攝政其職ニ就クマテハ内閣大政ヲ行フ同第五十八條攝政ハ國王ノ名ニ於テ大  
 權ヲ行フ攝政ハ其職ニ就キタル後兩議院合會ノ前ニ於テ王國憲法ヲ恪守シ且  
 憲法及法律ニ遵由シテ政ヲ行フノ誓ヲナス此宣誓ヲナサ、ル間ハ如何ナル場

合ニ於テモ當時ノ内閣ハ連帶シテ萬機ノ責ニ任ストアリ

### 天皇ノ大權

我憲法ヲ按スルニ其第一章第五條乃至第十六條ニ於テ天皇ノ大權ヲ明定セリ  
 然レトモ天皇ノ大權ハ敢テ其列舉シタルモノニ限盡セルニ非サルナリ抑モ我  
 國ハ創建以來君主專制ニシテ其臣民タルモノハ曾テ參政ノ權ヲ有シタルコト  
 ナシ況ンヤ憲法ハ欽定ニシテ唯、天皇カ政權ノ作用ヲ垂示セラレタルニ過キサ  
 レハ苟モ法律上明ニ限定セサル以上ハ如何ナル權力ヲモ天皇之ヲ有スト見テ  
 可ナルニ於テオヤ蓋シ戰亂革命等ノ機ニ乘シ憲法ニ依リテ得タル他ノ帝王ノ  
 大權トハ其間自ラ趣キテ異ニスルモノアリ是我憲法ノ萬國ニ無比ニシテ冠絶  
 スル所以ナリ然レトモ亦天皇ハ必スシモ憲法及法律以外ニ超脱スト云フヲ得  
 ス如何トナレハ我天皇ハ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ政務ヲ執行セラルレハナ  
 リ若シ不幸ニシテ然ラストセハ專制國ト毫モ擇フ所ナキニ至ラン大權ノ運用  
 ニ關シテ憲法及法律ノ制限アルハ實ニ立憲國タル所以ノ神隨タリ加之ナラス

我憲法第四條ニ於テ天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ依  
リ之ヲ行フトアリ請フ是ヨリ更ニ天皇ノ大權ニ就テ順次説明セン

第一 立法權 憲法第五條第六條及第三十七條ノ規定ニ依レハ總テ法律案  
ハ議會レ協賛シ天皇ノ裁可ヲ以テ始メテ法律トナル者ナリ故ニ立法權ハ他ノ  
大權ト稍其性質ヲ異ニセリ而シテ其立法權ハ果シテ大權ナルヤ否ヤハ憲法學  
上多少ノ疑ナキ能ハスト雖モ我憲法ニハ明ニ天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立  
法權ヲ行フト規定セルヲ以テ其大權タルヤ勿論ナリ第六條ニ於テ天皇ハ法律  
ヲ裁可シ云々トアリ又第五條ニ立法權ヲ行フトアリ故ニ第六條ノ規定ハ殆ン  
ト贅文ナルカ如何トナレハ所謂立法ナルモノハ天皇ニ在テハ發議ト裁可  
トニ過キサレハナリ(憲法第三十八條)而シテ已ニ立法ト云フ此二者アルヤ明ナ  
リ然ルニモ拘ハラヌ猶第六條ニ於テ再ヒ裁可云々ト記載シタルハ願フニ疑似  
ナカラシメンカ爲メナリ又第六條ニ謂フ所ノ法律ナル語ハ法律案ト云フ義ナ  
リ其然ル所以ハ他ナシ所謂法律トハ既ニ天皇ノ裁可ヲ經タル命令ノ一種ニシ  
テ完成シタルモノナリ已ニ完成シタルモノニ向テ復タ裁可スルノ理ナシ即チ

法律案ハ先ツ議會ニ提出スルヲ以テ初步トシ其協賛ニ由リ天皇ノ裁可ヲ經テ  
此ニ法律タルノ効力ヲ生スルモノナレハナリ

天皇カ法律案ヲ裁可スルノ方法ハ各國多少ノ差異アリト雖モ大同小異ナリ乃  
チ獨逸帝國ニ於テハ我國ノ如ク天皇親署ノ後御璽ヲ鈐シ大臣之ニ副署スレハ  
其手續終リタルモノトセリ我國ノ裁可法ハ明治十九年二月十四日勅令第一號  
ノ第三條及第十五條ニ規定セリ就中最モ奇ナルハ英國ニ於ケル裁可ノ手續ナ  
リ即チ議會ノ會期終リタルトキ其會期中ニ議決シタル所ノ各種ノ法律案ヲ貴  
族院ニ送附シ而シテ皇帝又ハ其代理官親シク貴族院ニ臨ミ貴族院書記官長ノ  
朗讀スル各法律案ニ對シ承諾ノ意ヲ表スルモノトス夫レ此ノ如ク天皇ニ裁可  
ノ權アレハ此ニ亦之ヲ拒否スルノ權アルヤ疑ヲ容レサル所ナリ而シテ歐洲各  
國ニ於テハ此拒否權ヲ以テ大權ノ一トナセリ然レトモ憲法ハ何レモ皆積極的  
ノ規定ナルヲ以テ斯ル拒否權ヲ明揭セサルナリ而シテ各國ノ皇帝又ハ大統領  
ニシテ法律案ヲ拒否シタルコト鮮ナカラス英國ニ在テハ一千七百零七年女王  
アンノ拒否權ヲ實行シタル以來會テ其例ヲ見ス我議院法第三十二條ニ於テ法

律案裁可ノ時限ヲ規定セリ云ク兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ開期マテニ公布セララルヘシト故ニ若シ奏上シタル法律案ニシテ次會期マテニ公布セラレサルトキハ其法律案ハ裁可ヲ得サルモノトセサル可カラス此點ニ關シテ共和國ト君主國ノ間ニ差異アリ即チ共和國ノ大統領ハ拒否權ヲ有セサルヲ以テ若シ一ノ法律案議會ノ協賛ヲ經大統領ノ裁可ヲ請フニ當リ大統領之ニ不同意ナルトキハ一定ノ期限内ニ其法律案ヲ議會ニ送還セサル可カラス而シテ議會再ヒ該法案ヲ可決シタルトキハ大統領之ヲ拒ムヲ得サルナリ

純正ノ立法ト云フ能ハサルカ如シト雖モ我憲法第八條ノ規定ニ依レハ天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ其災厄ヲ避クルカ爲メ緊急ノ必要ニ因リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ハルヘキ勅令ヲ發スルノ權アリ然レトモ此勅令ハ次ノ議會ニ提出シテ其承認ヲ得サル可カラス議會若シ承認セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其効力ナキコトヲ公布セサル可カラス抑モ本條ノ規定タル素ト天皇ノ立法權ノ完全ヲ期シタルニ基ケリ如何トナレハ總テ法律ハ必ス帝國議會ノ協

賛ヲ經サル可ラサルハ立憲ノ原則ナリト雖モ議會ハ常ニ開續スルモノニ非スシテ而モ社會ノ狀況ハ日ニ變遷移動シ時ニ或ハ咄嗟ノ間法律ヲ發布セサルヲ得サルカ如キ緊急必要ナルコトナキニ非ス是ニ於テカ之ニ應スルノ法ナカル可カラス是其法律ト効力ヲ同フスル勅令ヲ發スルノ權能ヲ存セシメタル所以ナリ然レトモ此ノ如キ權力ハ往々濫用シ易クシテ其極勅令ト法律ノ區別ナキニ至ルモノナリ故ニ憲法ハ更ニ此種ノ緊急勅令ハ必ラス帝國議會ニ提出シテ其承諾ヲ求ムヘキモノトナシ以テ勅令ト法律ノ區別ヲ截然タラシメ兼テ憲法第九條ノ但書即チ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得スト云フニ照應セシメタリ元來本條ノ如キ規定ハ諸國ノ憲法中未タ嘗テ見サル所ニシテ若シ其濫用ヲ豫防スルコトナクシハ時ニ或ハ禍害ノ測ラレサルモノアラシク今之ヲ憲法史ニ徵スルニ國家ノ緊急時ニ際シ内閣大臣其責任ヲ以テ法律違反ノ處置ヲナシタルコト其例決シテ尠ナカラス然ルニ斯ル處置ハ非常叛群ノ大偉人ニ非スンハ之ヲナス能ハス而モ之ヲ爲サ、ルトキハ却テ國家ノ不利ヲ招クコトナキニ非ス我憲法ハ深ク此ニ慮ル所アリ豫シメ彼カ如キ規定ヲ設ケタルモノナラン

立法權ニ附隨スル大權ハ憲法第七條ニ規定セリ即チ議會ノ召集開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲナスノ權是ナリ此大權ハ皆絶對的ニ非ス即チ憲法第四十一條ニ於テ帝國議會ハ毎年之ヲ召集スト明定セルヲ以テ一年一回ハ必ス之ヲ召集セサル可カラス又開期ハ憲法第四十二條ノ規定ニ依リ三箇月ナルヲ以テ開會ヨリ九十日以内ニ閉會ヲ命スルコト能ハス又停會ノ如キモ議院法第三十三條ニ依リ十五日ノ制限ヲ超ユルコト能ハサルナリ

第二 行政權 天皇ハ諸般ノ行政ヲ總攬ス故ニ法律ノ公布及其執行ヲ命シ(憲法第六條)且之ヲ執行セシムル爲メ公共ノ安寧ヲ保持シ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又發セシム然レトモ其命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得サルナリ(憲法第九條)第九條ニ謂フ所ノ命令ハ第八條ノ緊急勅令ト稍其趣キヲ異ニセリ而シテ第九條ノ命令ニハ二種ノ區別アリ即チ其一トハ執行命令ナリ元來法律ハ大體ヲ規定スルモノニシテ之カ實施上要スル所ノ細則ノ如キハ豫シメ法律ニ於テ規定スル能ハス故ニ一ノ法律ヲ執行セントスルニ當テハ必ス之ニ附隨スル所ノ細則及ヒ其手續等ヲ別ニ定メサルヲ得ス今是等ノモ

ノヲ稱シテ執行命令ト云フ其二トハ安寧命令ナリ行政ハ本臣民ノ安寧秩序ヲ保持シ其利益ヲ増進スルヲ以テ目的トナスモノナリ故ニ消極的ノ作用即チ臣民ノ患害ヲ除クト共ニ積極的ノ動作即チ其利益ヲ増進スルノ手段ヲ施サ、ルヲ得ス而シテ社會ノ狀況ハ日ニ變遷シテ須臾モ靜止スルコトナシ其變遷ニ因リ必要ノ生スル每一々法律ヲ以テ之ニ應スルハ到底爲シ能ハサル所ナリ是ニ於テカ行政ノ首長タル天皇ハ法律ノ範圍内ニ於テ隨時宜キニ處スルノ命令ヲ發スルノ要アリ而シテ此ノ如キ命令ハ常ニ法律ノ範圍ヲ超逸ス可カラサルコトハ第九條ノ但書ニ明定セル所ナルヲ以テ若シ國務上緊急ヲ要シ且法律ニ違反セサルヲ得サルノ事情生シタルトキ第八條ノ規定ニ依リ緊急命令トシテ先ツ發布シ然ル後帝國議會ノ承諾ヲ求メサル可カラサルナリ普魯西憲法第四十五條ニ云ク國王ハ法律ノ公布ヲ命シ且其執行ノ爲メ必要ナル命令ヲ發スト天皇ハ行政ノ首長タル資格ヲ以テ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ且之ヲ任免スト雖モ法律ノ規定アルモノハ之ニ從ハサル可カラサルハ立憲制ノ原則ナリ(憲法第十條)然レトモ其憲法及ヒ法律ノ兩立スル國即チ成文憲法國ニ在

テハ固ヨリ法律ハ憲法ニ違反スル能ハスト雖モ不文憲法ノ國ニ在テハ斯ル拘束ナクシテ如何ナル事項モ法律ヲ以テ制定スルヲ得ヘシ故ニ英國ノ如キハ法律ヲ以テ官制ヲ定メタルモノ多ク又裁判官ノ如キモ法律ヲ以テ其任免ノ條件ヲ定メタル國少ナカラス英國ニ於ケル高等法院ノ判事ハ皇帝之ヲ叙任スレトモ苟モ一タヒ叙任セラレタルトキハ終身官トナリ法律ニ違反セサル限リハ免官セラル、コトナシ但大法官ハ此特例ヨリ除クモノトス米國ニ於テモ亦然リ高等法院ノ判事ハ大統領之ヲ任用スレトモ一旦之ヲ任用シタル後ハ兩院ノ上奏又ハ彈劾ニ因ルノ外免職スルコト能ハサルナリ夫レ此ノ如ク各國共ニ裁判官ヲ以テ終身官トナシタルノ理由ハ他ナシ裁判官ナルモノハ司直ノ職ナルヲ以テ務メテ其位置ヲ鞏固ニシ毫モ他ノ誘惑ヲ受ケシム可カラサレハナリ是我憲法第五十七條ニ於テ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フト明定シタル所以ナリ普魯西憲法ニ於テモ其第四十五條ニ國王ハ武官及ヒ其他ノ官吏ヲ任命ス但法律ヲ以テ特ニ定メタルモノハ此限ニ在ラス又同八十七條ニ裁判官ハ終身官ニシテ國王又ハ國王ノ名ニ於テ之ヲ任命シ法律ニ定ムル理

由ヲ以テ裁判ヲ經ルニ非サレハ免職又ハ停職セラル、コトナシ法律ニ依ラスシテ停職ヲ命シ且其意ニ反シ轉任セシメ又ハ休職ヲ命スルハ法律ニ定メタル理由及ヒ手續ヲ以テ裁判ヲ經ルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ストアリ

第三 兵馬權 我憲法第十一條ニ天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス同第十二條ニ天皇ハ陸海軍ノ編制及ヒ常備兵額ヲ定ム同第十四條ニ天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス戒嚴ノ要件及ヒ効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムトアリ此三條ハ則天皇ノ兵馬ノ大權ヲ規定シタルモノナリ古來我國ニ於ケル兵馬ノ大權ハ天皇ノ掌握スル所ナリシカ中古封建ノ制度行ハル、ニ及ヒ遂ニ武人ノ壟斷スル所トナリ而シテ明治維新ニ至リ再ヒ舊ニ復シタルヲ以テ此ニ之ヲ明定シタルモノナリ英國ニ於テモ皇帝ハ陸海軍ノ元帥タルコト勿論ナレトモ多クノ學者ハ兵馬權ヲ以テ大權中ニ算入セスシテ皇帝ニ屬スル外交權ノ一部トナセリ即チチ、一氏ノ大權論ニ云ク皇帝ハ外交ノ首長トシテ宣戰講和ノ權ヲ有ス而シテ此大權ヲ實行センニハ須ラク其手段トシテ必要ナル兵馬ノ權ヲ掌握セサル可カラス若シ然ラサル時ハ機ニ臨ミ變ニ應シテ外交上ノ動作ヲ全フスルコト能ハサル

ナリ此故ニ皇帝ハ軍艦ヲ造リ砲臺ヲ築キ且常備軍ヲ練習シ國民軍ヲ召集スルヲ得ヘシ云々ト然レトモ一千六百八十九年ノ權利請願法ハ當時ノ趨勢ニ基キ議會ノ承諾ヲ經スシテ平時常備軍ヲ置クコトヲ禁シタリ故ニ再後毎年議會ノ承諾ヲ以テ之ヲ置クコト、ナレリ夫レ斯ノ如ク皇帝ノ兵馬權ヲ制限シタリト雖モ常備軍ノ必要ナルハ固ヨリ論ヲ俟タサル所ナルヲ以テ彼ノ法律ハ實際殆ント無用ニ歸セリ但未タ其規定ヲ廢セスト云フニ過キサレナリ又普魯西ニ於テハ憲法第四十五條ニ明定セリ云ク國王ハ兵馬ノ元帥ナリ同第四十七條ニ云ク國王ハ武官ヲ任免黜陟スト

若シ不幸ニシテ一旦國家ニ戰亂動搖ノ變起ルトキハ平時ノ法律ハ以テ之ニ應スルニ足ラサルナリ必スヤ果斷迅速ノ軍律ヲ布キ以テ其戰亂ヲ速ニ鎮定スルノ便ヲ與ヘサル可カラス是我憲法第十四條ニ規定セル戒嚴ノ必要アル所以ナリ畢竟戒嚴ハ非常ノ場合ニ處スル方法ナルヲ以テ從テ其要件及ヒ効力ノ如キモ豫メ法律ニ之ヲ定ムルコト、セリ

第四 外交權 我憲法第十三條ニ云ク天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及ヒ諸般ノ

條約ヲ締結スト抑外國交際ノ事タルヤ悉ク皆國家全體ニ關スルヲ以テ之ヲ主宰スルモノハ亦一國ノ代表者タル所ノ君主タルヘキハ當然ナリ且外交ノ事務ハ頗ル迅速ト秘密トヲ要シ而シテ他ノ行政事務トハ稍、其趣キヲ異ニスルモノナリ故ニ之ヲ皇帝ノ專決スル所ニ一任スルニ非カレハ圓滿ノ結果ヲ見ルコト能ハサルヘシ中古歐洲ニ於テ民權論ノ盛ンナリシ時外國條約ノ如キモ議會ノ議決ヲ俟テ後ニ決行スヘシト論シタルモノアリタリト雖モ是レ全ク外交事務ノ性質ヲ誤解シタルト君主專制ヲ疾惡スルノ甚シキトニ出テタルモノニシテ各國中未タ嘗テ之ヲ實行シタルモノアルヲ見サルナリ此ノ如ク皇帝ハ外交ヲ主宰スルモノナルヲ以テ其代理官タル所ノ大使及ヒ公使ノ任免ノ如キモ全ク皇帝ノ掌中ニ存セサル可カラス而シテ一朝外交上兩國ノ議相協ハサルコト生シ平和ノ手段盡クル時ハ之ニ次クニ兵力ヲ以テセサル可カラス此ノ如ク外交ト兵力トハ相表裏シテ須臾モ離ル可カラサルモノナリ故ニ苟モ外交ノ全權ヲ掌握スルモノハ亦從テ宣戰講和ノ全權ヲ有スルニ非スンハ遂ニ其進退ヲ全フスルコト能ハサルナリ古來皇帝ニシテ躬親ラ外交ノ衝ニ當リタルモノ其例少

ナカラス就中佛國ノ路易十四世及ヒ英國ノウキリヤム三世ノ如キハ其尤モ著名ナルモノナリ然レトモ近世ノ立憲國ニ在テハ常ニ内閣大臣ノ一人必ス外交ノ主任者トナルヲ通則トス

普魯西憲法第四十八條ニ云ク國王ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及ヒ外國政府ト諸般ノ條約ヲ締結ス外國トノ條約若シ通商條約ニシテ或ハ之カ爲メ國家若クハ一個ノ負擔ヲ生スヘキモノナルトキハ兩議院ノ同意ヲ得テ始メテ有効トスト

第五 榮譽權 我憲法第十五條ニ云ク天皇ハ爵位勳賞及ヒ其他ノ榮典ヲ授與スト凡ソ爵位勳賞ヲ授與スルハ國家ニ對スル諸般ノ勳功ヲ褒賞スルモノナルヲ以テ其之ヲ授與スルモノモ亦外ニ向テ國家ヲ代表シ内ニ在テハ政治上ノ最高位ヲ占メ國家全體ノ動作ニ任スヘキ君主タルハ當然ナリ政治學ノ格言ニ云ク皇帝ハ榮譽及ヒ正義ノ淵源ナリト普國憲法第五十條ニ云ク國王ハ勳賞及ヒ他ノ譽彰ヲ授與スルノ權ヲ有ス但其榮譽ハ特權ヲ附帶セスト

第六 恩赦權 我憲法第十六條ニ云ク天皇ハ大赦特赦減刑及ヒ復權ヲ命ズト君主ハ犯罪者ガ有罪ノ宣告ヲ受クルト否トニ關セス之ヲ赦免スルヲ得所謂

大赦是ナリ又一ノ犯罪人ヲ赦免有恕スルコトアリ之ヲ稱シテ特赦ト云フ而シテ大赦ハ多ク國家ノ大慶事アルトキ又ハ革命等ノ後ニ行ヒ特赦ハ法律ノ不備又ハ法官ノ過失ヲ矯正スル爲メ行フモノナリ歐洲諸國ニ於テ大赦特赦ヲ君主ノ大權トナス所以ノ理由ハ蓋シ國家ニ對スル犯罪ハ總テ君主ノ治平ヲ壞亂シタルモノニシテ之ヲ罰スルハ君主ナルヲ以テ之ヲ赦スモ亦君主ナラサル可カラス且人類ハ固ヨリ不完全ノ動物ナレハ縱令如何ニ善美ヲ盡シタル法律ト雖モ多少ノ瑕瑾ナキヲ保ス可カラス況ンヤ法官ニ過誤アルコト蔽フ可カラサルノ事實ナルニ於テオヤ夫レ此ノ如ク法律ニ缺漏アリ法官ニ過誤アルコトヲ知ラハ宜シク之ヲ救済スルノ途ナカル可カラス而シテ此救済權ヲ議會ニ屬センカ管ニ不便ナルノミナラスシテ全ク其功ヲ奏セサルニ至ラン故ニ之ヲ一國ノ元首タル皇帝ノ專決ニ委スルハ誠ニ其當ヲ得タルモノナリト云フニ在リ普國憲法第四十九條ニ云ク國王ハ恩赦減刑ヲ命スルノ權アリ大臣其職務ヲ以テ罪ヲ得タルトキハ之ヲ彈劾シタル議院ノ上奏アル場合ニ限り此權ヲ行フコトヲ得國王ハ法律ニ依ルニ非サレハ既ニ行ヒタル審理ヲ破毀スルヲ得スト又英



國ニ於テハ如何ナル犯罪ト雖モ皇帝之ヲ赦免シ又ハ其審問ヲ停止スルヲ得ルノ制ナレトモ二千七百年ノ法律ニ因リ特ニ彈劾ノミハ其審問ヲ停止スルヲ得サルコトナレリ

### 立法部

我憲法第三拾三條ニ云ク帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立スト是ヲ以テ觀レハ我國ノ兩院制度ヲ採リタルヤ明ナリ而シテ現今世界各國中兩院制度ヲ採用スルモノ最モ多シトス夫ノ一院制度ヲ用ユルモノハ如キハ希臘セルビヤ等二三ノ小國ニ過キサリナリ憲法史ヲ按スルニ古代ニ在テハ各國皆一院制ヲ用キタルヤ疑ナシ而シテ立憲制度ノ始祖タル英國ハ何ノ時代ヨリ議會成立シタルヤ今日之ヲ明知シ難シト雖モ一千百年以後ニ於テ確ニ方今ノ所謂議會ノ萌芽ト稱スヘキモノ存シタルハ明ナリ而シテ初メハ唯々専ラ司法裁判事務及ヒ租稅事務ニ關シテ國王ノ諮詢ニ答フル所ノ顧問府タルニ止マリタリ又其上下兩院ニ分離シタルハ何頃ナリシヤ是亦判然セスト雖モ徵租ノ爲メニ貴族

僧侶平民ヲ召集シテ議會ヲ開クニ及ヒ貴族ト平民ト一堂ノ内ニ會議スルハ互ニ不快ノ感情アルヲ以テ遂ニ採決ノ時ハ別室ニ於テ投票スルノ習慣生シタリ是或ハ今日ノ兩院分離ノ端緒ニ非サルカ又一千二百二十四年十二月十四日市町村選舉ノ代議士ヲ倫敦ニ召集シタルヲ以テ兩院分離ノ時期トナスモノアレトモ當時果シテ劃然分離シタルヤ頗ル疑ナキ能ハサルナリ然レトモ爾後貴族ト平民カ一堂ニ相會シタルノ痕迹ナキヲ以テ見ルトキハ其一院制ノ變シテ兩院制トナリタルヤ疑ナ容レサル所ナリ蘇格蘭ノ如キハ一千七百零七年英國ニ令併スルマテハ一院制ヲ用井タリ一院制度ハ嘗テ佛國及西班牙ニ試ミラレタリト雖モ暫時ニシテ兩院制ニ改メラレタリ

兩院制度ト一院制度ノ得失ハ容易ニ之ヲ判定シ難シト雖モ要スルニ一院制ノ利トスル所ハ權力ノ統一ト事務ノ進捗ニ在リ之ニ反シテ兩院制ノ利ハ過激ノ立法ヲ避ケ兼テ異種ノ人民ヲマテ其代表ヲ得セシム之ヲ換言スレハ異種ノ利益ヲ集合スルノ利益アルニ在リトス此ノ如ク甲制ノ利ハ之ヲ乙制ニ缺キ乙制ノ利ハ之ヲ甲制ニ望ム能ハスシテ兩者絶對ニ其優劣ヲ分ツ能ハスト雖モ其國

土狹小ニシテ人民ノ利害ニ大差ナキ國ニ在テハ一院ノ制度利ナルカ如ク又大國ニシテ異種ノ人民多キモノニ在テハ兩院ノ制度可ナルカ如シ

我憲法第三十四條ニ云ク貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織スト本條ノ規定ニ依レハ我貴族院議員ハ社會上流ノ地位ヲ占ムルモノヨリ成立ス即チ皇族華族ハ爵位ヲ代表シ又貴族院令第一條四項ニ因リ特ニ勅選セラレタル議員ニシテ國家ニ勳勞アルモノ及學術技藝ヲ代表シ又同第五項ニ因レル多額納稅議員ハ社會ノ富チ代表ス故ニ貴族院ハ社會各種族ノ利益ヲ代表セシムルヲ以テ主眼トスルモノナリ

普魯西ノ貴族院ハ世襲議員及終身議員ヲ以テ組織シ又伊太利ハ世襲議員及勅任議員ノ二種ヲ以テセリ而シテ勅任議員ハ國家ニ功勞アリ又ハ學識技藝アルモノヨリ國王ノ特選ス又英國ノ貴族院ハ世襲華族被選華族僧侶裁判官ヲ以テ組織ス又各共和國ニ於ケル上院ハ複選ノ方法ニ依リ選舉シタル議員ヲ以テ組織ス

我憲法第三十五條ニ云ク衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議

員ヲ以テ組織ストアリ下院議員ノ選舉法ハ各國共大同小異ニシテ或ハ財產或ハ年齡ニ制限ヲ置クト然ラサルトアレドモ其之ヲ公選スル點ニ於テハ皆然ラサルナシ

夫レ是ノ如ク上院ハ社會上流ノ位地ヲ占ムルモノ及富人ヲ以テ組織スルカ故ニ自然保守ニ流レ急激ニ失スルノ虞ナシト雖モ稍活潑ノ動作ヲナス能ハサルノ弊アリ之ニ反シテ下院ハ廣ク人民ノ公選ニ由ルモノナルヲ以テ少壯有爲ノ人物ヲ選出スルト同時ニ進取ノ氣象ニ富ムト雖モ亦急激ニ失スルノ弊ナキ能ハサルナリ所謂上院ハ秩序ノ母ニシテ下院ハ進歩ノ父トハ實ニ適評ナリ

我憲法第三十六條ノ規定ハ兩院ノ性質相異ナルノ結果ニ出ツト雖モ第四十四條ノ規定ニ因リ兩院ハ同時ニ開會又ハ停會セラル、ヲ以テ實際兩院議員ヲ兼スル能ハサルナリ第三十七條乃至三十九條ハ議會カ法律ノ議定及發議權ヲ有スルコトヲ規定シタルモノニシテ其法律案ヲ議スルハ實ニ立法部タル所以ノ眞面目ナリ而シテ發議權ハ元首及貴衆兩院共ニ之ヲ有セリ第三十九條ノ規定ハ事務ノ進行ヲ妨ケサルカ爲メ且兩院ノ爭議ヲ生セサラシムルカ爲メニ設ケ

### 兩議院ノ特權

#### 第一 法律案提出及協賛

#### 第二 建議權

我憲法第四十條ニ云ク兩議院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ付各其意見ヲ政府ニ建議スルヲ得但其採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルヲ得スト此規定ニ依レハ兩議院ハ如何ナル事件ニ付テ政府ニ建議スルモ會テ妨ケナキカ如シ然レトモ建議ナルモノハ之ヲ立法權ニ比スレハ極メテ薄弱ナル權力ニシテ或事件ニ關シ政府ノ注意ヲ喚起スルニ止マリ敢テ之ヲ強ユル能ハス從テ亦兩院ノ共同ヲ要セス故ニ兩院各反對ノ意見ヲ建議スルモ隨意ナリ

法律案提出及協賛權ハ共ニ各國憲法ノ承認スル所ナレトモ建議ニ至テハ眞ニ稀ナリ而シテ其建議案モ彼ノ法律案ト均シク同會期中ニ再議スルヲ禁メタル所以ハ願フニ政府ト議院ノ紛議ヲ豫防センカ爲メニ出テタル者ナランカ然リ

而シテ建議モ亦行政上ノ監督トシテ全く其功ナキニ非スト雖モ其勢力ハ法律ニ及ハス又其便宜ナルハ質問ニ及ハサルナリ

#### 第三 上奏權

我憲法第四十九條ニ云ク兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得ト是レ議院ノ有スル諸權力中最モ強大ナルモノニシテ各國ノ憲法ニ於テ均シク承認スル所ナリ普魯西憲法第八十一條ニハ兩議院ハ各天皇ニ上奏スルノ權ヲ有ストアリ又英國ニ於テハ法律上明文アルコトナシト雖モ古代ヨリ之ヲ行ヒ來タル所ノ慣例タルヤ敢テ疑ヲ容レサルナリ而シテ此上奏モ亦建議ト同シク其範圍ニ定限ナキヲ以テ如何ナル事項ニ就テ上奏スルモ敢テ不可ナルナキカ如シ斯ク上奏ト建議ノ區別ヲ定メタル所以ハ一ハ其意見ヲ天皇ニ上奏シ一ハ之ヲ政府ニ致スノ差アルニ由レリ

政黨内閣ノ行ハル、國ニ在テハ天皇ニ上奏スルノ要幾ント之ナシト雖モ立憲制度ノ創始ニ屬シ政黨内閣ノ行ハレサル國ニ在テハ之ヲ行フコト頗ル多シトス上奏ハ常ニ文書ヲ以テ捧呈スルコト勿論ナレトモ我議院法第五十一條ニ依

レハ各議院上奏セントスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見  
ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得トアルヲ以テ兩院ノ議長ハ他ニ執奏ヲ依頼セス  
シテ直ニ上奏書ヲ陛下ニ奉呈スルヲ得ヘキナリ是レ議院ノ意見ヲ聖聽ニ致ス  
ノ最良手段ナリ

第四 請願受理

抑モ請願トハ臣民カ其疾苦ヲ懇スルノ方法ニシテ所謂建白ナルモノト全ク其  
性質ヲ異ニセリ而シテ請願ハ憲法第三十條ノ明文ニ因リ國民ノ權利ニ屬スル  
モノナルヲ以テ苟モ日本臣民ニシテ且法定ノ形式ニ違ハサル願書ヲ提出スル  
トキハ議院ニ於テ之ヲ拒斥スルヲ得サルナリ然レトモ若シ議院其願意ヲ贊成  
セサルトキハ之ヲ採用セサルナリ

請願ニ關スル手續ハ各國其趣キヲ異ニセリ英國ニ於テハ若シ議院カ其請願ヲ  
採擇シタルトキハ立法ノ手續ニ依テ人民ノ意思ヲ達セシムルコトヘセリ

第五 細則議定權

我憲法第五十一條ニ云ク兩議院ハ此憲法及議院法ニ掲クルモノ、外内部ノ整

理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得凡ソ議會ハ立法部トシテ行政部ト對  
立シ國家ノ機關タルヲ以テ憲法及法律ノ範圍内ニ在テハ自個ノ動作ニ付キ決  
シテ他ノ干渉ヲ受クヘキモノニ非サルハ勿論ナリ然レトモ議會ノ職掌ハ間接  
又ハ消極ノ性質ヲ有スルモノニシテ自動シテ實地ニ應用スヘキモノニアラサ  
ルナリ故ニ議院法第十四條ヲ以テ議會カ國務大臣及政府委員ノ外官廳又ハ地  
方議會又ハ人民ト照會往復スルコトヲ禁シタリ是ヲ以テ議院ノ議定シ得ヘキ  
規則ハ其内部整理ノ規定ヲ設クルニ止マリ其他ニ及ホスコト能ハサルナリ  
我國ニ於テハ貴衆兩院規則及兩院協議會規程トアレトモ英國ニ於テハ貴衆兩  
院常程及ヒ規則トアリ而シテ其常程ハ永久ニ亘リテ効力ヲ有シ規則ハ只會期  
中ノミ効力アルモノトセリ又米國ニ於テハ每議會其規則ヲ議定ス普魯西モ亦  
其憲法第七十八條ニ於テ事務細則議定權ヲ兩院ニ與ヘタリ尙此ニ一言スヘキ  
ハ兩院議長ノ院内ニ於ケル權力是ナリ議院法第十條ニ依レハ各議院ノ議長ハ  
其議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ストアリ而シテ議  
長ノ有スル所ノ院内ニ對スル權力ハ非常ニ強大ナルモノナリ又其秩序ヲ保持

スルノ義務アルト同時ニ之ヲ實行スルニ必要ナル警察權ヲ掌握セリ即チ議院  
 法第八十五條ニ云ク各議院開會中其紀律ヲ保持セシカ爲メ内部警察ノ權ハ此  
 法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行スト故ニ苟モ議長ノ  
 許可ナキトキハ院內ニ於テ如何ナル犯罪ノ生スルコトアルモ警察官ハ之ニ干  
 渉スル能ハス語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ議院ハ治外法權ヲ有セリ又議長ハ議事ヲ  
 整理スルノ權ヲ有スル結果トシテ議場內ニ在ルモノハ假令國務大臣タリトモ  
 其命ニ背クヲ得ザルベシ議長ハ議院規則ノ解釋權ヲ有スルヲ以テ若シ其規則  
 中ニ疑似ノ點アルトキハ議長之ヲ解釋決定ズルヲ得又院外ニ對シ議院ヲ代表  
 スヘキモノナルヲ以テ議院ヨリ發スル一切ノ公文ハ議長ノ名ヲ用ユルモノト  
 ス

### 議員ノ特權

我憲法第五十二條ニ云ク兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ  
 付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ云々ト是レ議員タルモノ、言論ノ自由ヲ保障

シタルモノナリ然レトモ此保障ハ唯、院外ニ於テ責ヲ負ハス更ニ詳言スレハ司  
 法又ハ警察ノ權ヲ以テ院內ノ言論ヲ責罰セスト云フニ止マリ議院法議院規則  
 等ノ規定ハ固ヨリ之ヲ遵守セサル可カラズ又縱令議院內ニ於ケルノ言論ト雖  
 モ議員自ラ之ヲ院外ニ發表公布スルトキハ其責ヲ負ハサルヲ得サルハ勿論ニ  
 シテ毫モ通常人ト異ナル所ナシ普魯西憲法第八十四條ニハ兩院議員ハ其議院  
 ニ於ケル表決ニ付テ責ヲ負フコトナシ但議院ニ於テ發言シタル意見ニ付テハ  
 議院規則ニ從ヒ其院限り責任アルモノトストアリ

### 議員身體ノ自由

我憲法第五十三條ニ云ク兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内乱外患ニ關ル罪ヲ除  
 ク外會期中其院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルベコトナシト本條ハ立法部ノ獨立  
 議員ノ安全ヲ保障シタルモノニシテ議會ノ開期中ハ裁判所ニ於テ議員ヲ拘留  
 又ハ監禁スル能ハサルナリ然レトモ犯罪ノ性質ニ因テ之ヲ緩慢ニ附スル能ハ  
 サルコトアルヲ以テ斯ル場合ニハ先ツ之ヲ逮捕シ然ル後議院ニ通知スルコト

、ナシタルナリ普國憲法第八十四條ニ云ク議員ハ會期中犯罪ノ爲メ議院ノ承諾ナクシテ糾問又ハ逮捕セラル、コトナシ但當日又ハ翌日ニ捕ヘラレタル現行犯ハ此限ニ在ラス負債ノ爲メニ逮捕スル場合ニ於テモ亦同ク議院ノ承諾ヲ要ス議員ニ對スル刑事究治訊問拘留及民事上ノ拘留ハ議院ノ請求ニ因リ會期中放免セラルト又米國憲法第壹章第六條ニモ元老代議兩院ノ議員ハ會期中及議院ニ往復ノ途中ハ逮捕スルヲ得ストアリ次ニ英國ニ於ケル議員身體ノ自由ハ其起原遠ク大古ヨリノ慣例ナリ即チ昔時ニ在テハ議會召集四十日前ヨリ議會閉會後四十日間ハ議員及其從者ハ身體ノ自由ヲ有セリ然レトモ此自由ハ唯民事上ノ拘留等ニ止マリ刑事ニ及ハサリシ而テ其理由トスル所ハ議員タルモノハ素ト國家ノ大政ニ參與スルカ爲メニ召集セラル、モノナリ故ニ苟モ國家ニ對スル犯罪者ハ之カ召集ニ應スルヲ許サスト云フニ在リ中古ニ至リ此特權ハ屢國王ノ蹂躪スル所トナリタリシカ一千七百七十年ジョージ三世ノ時特ニ法律ヲ以テ身體ノ自由ハ單ニ議員ノ一身ニ止マリ其從者ノ特權ヲ廢シタリ其後裁判例ニ因テ議會前後四十日及會期中特權アルモノト確定シタリ

夫レ此ノ如ク各國ノ憲法ニ於テ議員身體ノ自由ヲ規定セル所以ハ他ナシ若シ一旦君主又ハ政府ト議院ノ間ニ衝突ヲ生シ相軋轢スルニ至レハ君主又ハ政府ハ常ニ警察權ヲ利用シ反對ノ議員ヲ拘留スルノ虞アリ而シテ斯ル失體ヲ恣ニ行フトキハ議院政治ハ遂ニ其効ヲ失ヒ立憲ノ實全ク此ニ亡滅スレハナリ

### 議會ノ召集及會議

我憲法第四十一條ニ云ク帝國議會ハ每年之ヲ召集ス同第四十三條ニ云ク臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集ス同第四十五條ニ云ク衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スト以上ノ規定ニ依テ見レハ帝國議會ハ左ノ三場合ニ召集セラルモノトス即チ(一)通常會(二)臨時會(三)四十五條ノ會是ナリ而シテ通常會ノ會期ノ三箇月ナルコトハ第四十二條ニ明文アリ又臨時會ノ會期ハ勅令ヲ以テ隨時之ヲ定ムヘシト雖モ特ニ第四十五條ノ會ニ至テハ何ニ依リ之カ會期ヲ定ムヘキヤ憲法中曾テ明文ナシ然ルニ此場合ニ遭遇シタル第三議會ハ勅命

ヲ以テ特ニ其會期ヲ明定シタリ是レ正ニ先例トナリテ本年五月十二日召集ノ議會モ亦勅命ヲ以テ其會期ヲ二十一日ト定メタリ而シテ政府ハ憲法又ハ法律ノ如何ナル條規ニ基テ其會期ヲ定メタルヤ今第三議會ノ時衆議院議員ノ質問ニ對スル政府ノ答辯ヲ見ルニ云ク憲法第四十五條ノ場合ニ於ケル帝國議會ノ會期ニ關シ憲法上特別ノ規定ヲ存セサルニ因リ第七條ニ於ケル一般ノ規定ニ從ヒ勅命ヲ以テ定メタリ云々ト

會期ノ延期ハ第四議會ニ於テ初メテ其例ヲ作りタリ即チ第四議會ハ二月廿六日ヲ以テ閉會スヘキ者ナリシカ其廿四日ニ至リ特ニ勅命ヲ以テ二月廿八日マテ延長セラレタリ憲法第四十四條ノ規定ト第七條ノ規定ハ相照應表裏スルモノニシテ立憲君主國ニ在テハ皆此規定アラサルナシ普國憲法第七十六條ニ云ク王國議會兩院ハ通常毎年十一月初旬ヨリ翌年一月中旬ノ間ニ國王之ヲ召集ス其他必要アル場合ニハ臨時召集スルコトアルヘシト又共和國就中佛國ノ如キハ法律ヲ以テ議會ノ集會日ヲ規定セリ又北米合衆國ニ於テハ毎年十二月第一日曜ヲ集會シ寄數ノ年ハ三月四日偶數ノ年ハ六月三十日マテテ會期トナセ

リ停會ニ關シテハ我憲法中何ノ制限モナシ故ニ幾回停會スルモ法律上敢テ能ハサルノ理ナシ而シテ停會日數ハ會期中ニ算入スヘキヤ否ヤハ一ノ疑問ナリシカ第三議會ニ於テ停會ヲ命セラレタル時始メテ之ヲ會期中ニ算入シ以テ先例ヲ作りタリ然レトモ我國ノ如キ停會ニ制限ナキ制度ニ在テハ其停會日數ヲ會期中ニ算入スルノ得失果シテ如何佛國ノ如キハ大統領議會ヲ停會スルノ權ヲ有スレトモ其停會日數ハ二週日ニ止マリ且一會期中兩度以上ニ超ユルヲ得サルコト、セリ

解散トハ衆議院ノ存立ヲ停止シ更ニ之ヲ一新スル方法ノ謂ナリ我憲法第四十四條第二項ノ停會ナル文字ハ議院法第三十三條ノ停會ナル文字ト同一ノ意義ナリヤ若シ然リトセハ議院法ノ所謂停會ハ十五日間ノ期限アルヲ以テ憲法第四十四條ノ場合ニ於ケル停會モ亦十五日ノ期限アリト云ハサル可カラス果シテ此ノ如クシハ衆議院解散セラレ十五日ヲ經過シタル後ニ至レハ貴族院獨リ開會シ得ヘキヤ頗ル疑ナキ能ハサルナリ  
憲法第四十五條ノ規定ハ議會ノ存在ヲ保障シタルモノニシテ若シ此ノ如キ期

限ナキトキハ一旦解散セラレタル後議會ハ政府ニ對シ獨立ヲ失フニ至ルヘシ然レトモ己ニ第四十一條ニ於テ議會ハ每年之ヲ召集ストアレハ本條ノ如キハ之ヲト雖モ敢テ不可ナカラシテ次ニ第四十六條及四十七條ハ會議ノ方法ヲ規定シタルモノナリ而シテ其議員三分ノ一ヲ以テ定足數トナシタルハ少シク多キニ失スルカ如シ現ニ英國ノ貴族院ハ近年ニ至ルマテ三人ヲ以テ定足數トナシ來リシカ現時ハ三十人出席スルニ非サレハ議決ヲナス能ハサルコトナレリ亦庶民院ハ四十人ヲ以テ定足數トセリ亦米國ハ元老代議兩院共ニ過半數ヲ以テ定足數トナセリ

### 歲計決算

我憲法第七十二條ニ云ク國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其決算報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシト今此法文ニ依テ見ルトキハ所謂決算ナルモノハ單ニ政府カ議會ニ提出スル一種ノ報告ニ止マリ議會ハ之ニ對シテ協贊ヲナシ又ハ承諾不承諾ヲ表スルニ足ラサルカ如シ何ツ夫ノ

豫算ト相懸隔スルノ甚シキ業己ニ第六十四條ニ於テ國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシト明定シ以テ議會ノ財政ノ事前監督ニ關スル權力ヲ充分認識シタルニ拘ハラズ獨リ決算ニ至リテハ單ニ提出スヘシトシテ議會ノ承諾ヲ要セサルモノトスルカ如キハ頗ル權衡ヲ失スルカ如シト雖モ明文己ニ然リトセハ亦如何トモナス能ハサルナリ獨逸憲法ヲ按スルニ其七十四條ニ云ク帝國ノ收入支出ニ關シ帝國大臣ハ責任解除ノ爲メ聯邦議會及帝國議會ニ決算ヲ提出スヘシト故ニ決算報告及會計檢査院ノ檢査ヲ以テ最終ノ確定ヲナスモノニ非ス必スヤ議會ノ承諾ヲ得テ此ニ漸ク政府ハ其責任ヲ解除セラル、ヲ得ルナリ事此ノ如クニシテ議會ノ財政監督權完備セリト云フヘシ如何トナレハ豫算ノ協贊ヲ以テ事前ノ監督ヲナシ決算ノ審査ヲ以テ事後ノ監督ヲナシ得ヘケレハナリ普國憲法第百四條ニ云ク豫算額ノ超過ハ兩議院ニ向テ事後承諾ヲ求ムルヲ要ス歲入歲出ニ關スル決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ毎年ノ歲入歲出ニ關スル總決算ノ國債一覽表ヲ添ヘ會計檢査院ノ意見ヲ附シ政府ノ財政ニ關スル責任ヲ解除スル爲メ之ヲ兩議院ニ提出スヘシ而シテ



此手續ヲナスニハ左ノ如キ公文ヲ以テス

四八

甲

普國王朕ウ井ルヘルム 王國大藏大臣ヲシテ一千八百八十七年四月一日ヨリ一千八百八十八年四月一日ニ至ル滿一箇年間ニ於ケル普國政府ノ決算書會計検査院ノ報告並ニ意見書ヲ添ヘ政府ノ責任ヲ解除セシメンカ爲メ此ニ之ヲ王國議會ニ提出シ以テ承認ヲ求メシム  
一千八百九十一年 伯林王城ニ於テ

ウ井ルヘルム

王國大藏大臣

ウ井ツケル

乙

天祐ヲ保有セル獨逸皇帝及普國王ナル朕ウ井ルヘルム  
一千八百八十七年ヨリ同八十八年ニ至ル獨逸帝國及エルサスロツドリ  
ンゲン政府ノ決算ニ對シ普國會計検査院ハ獨逸帝國會計検査院ノ名義

ヲ以テ帝國及「イルザス、ロートリンゲン」ノ決算監督ニ關シ千八百七十五年二月十一日ノ法律明文ヲ遵奉シ検査シタル同院ノ報告并高等會計検査院ノ千八百八十七年ニ關スル帝國銀行ノ決算ニ付テ千八百七十五年三月十四日發布ノ銀行規則第二十九章ヲ遵奉シタル検査報告ニ對シ獨逸聯邦會議及帝國議會ハ承諾ヲ表シ政府ノ責任解除ヲ承認シタルヲ以テ茲ニ之ヲ公布ス  
朕ノ自記及朕ノ印璽ヲ證ス

伯林千八百八十八年二月一日

ウ井ルヘルム

フチン、ベツチル

國法學ノ原則ヨリ論スルトキハ前述セル獨逸普魯西ノ如ク其憲法ニ於テ責任解除云々ノ規定アルヲ以テ完全ナリト云ハサル可カラス然レトモ亦特別ノ國ニ於テ特別ノ規定アル必スシモ不理ナルニ非サルナリ已ニ述フルカ如ク歐洲諸國ニ於テハ決算ノ検査ヲ以テ財政監督上重要ナルモノトスルカ故ニ更ニ之ヲ審査スル所ノ議會ニ於テモ亦頗ル叮嚀ナル手續ニ依リ之ヲ審査セリ特ニ普

憲法

四九

國代議院ノ如キハ常任委員ヲ設ケ之ヲ審査セシメ其報告ヲ俟テ會議ヲ開キ以テ議決確定スルコト、セリ

英國ノ決算 會計検査院及庶民院ト決算委員ノ關係

英國ノ會計検査院ハ一千八百六十六年發布ノ會計検査院法ニ因テ創設セラレタルモノナリ該法制定以前ニ在テハ會計検査事務ハ單ニ大藏省ノ一部タリシモ此時ヨリ全ク分離シテ會計検査院ヲ獨立セシメ古來不明瞭ナリシ所ノ責任ヲ分チ即大藏省ハ行政上會計監督ノ責任ヲ負ヒ又會計検査院ハ議會ニ對シテ會計監督ノ責任ヲ有スルコト、ナレリ此故ニ大藏省ハ唯、或支出ハ正當ナル命令官及支拂官ノ承認アリタルヤ否ヤヲ検査シ又會計検査院ハ或支出ハ議會ノ協賛ヲ經タルモノナルヤ否ヤヲ検査スルモノトス

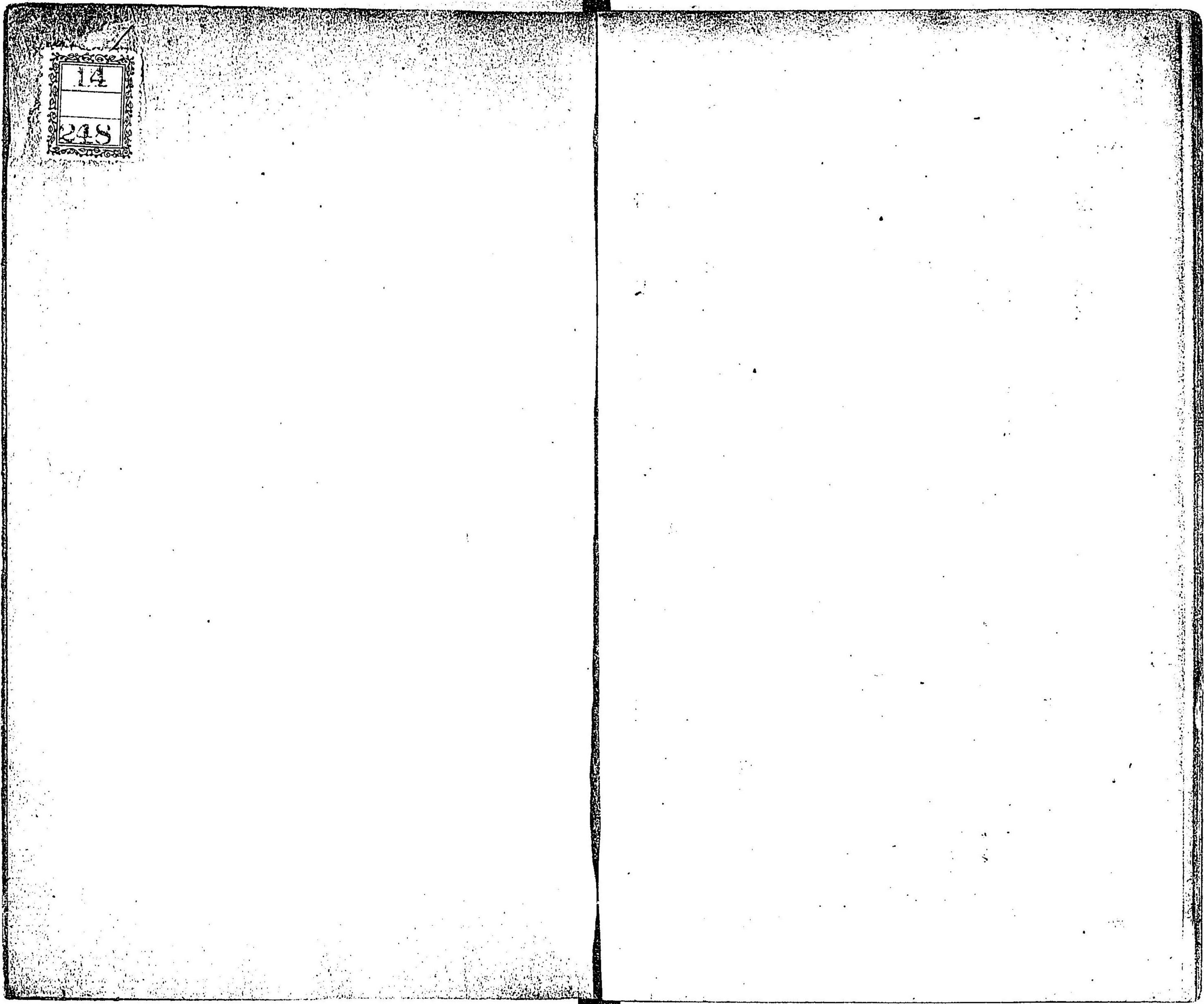
會計検査院長ハ議會ノ検査資料ニ供スルカ爲メ毎年決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏省ニ送附シ然シテ大藏省ハ更ニ會計検査院長カ不法ノ支拂ト指摘シタル事項ニ付辯明ヲ附記シ尙ホ決算全體ニ就キ大藏省ノ意見ヲ附シテ庶民院ニ轉送シ之ト同時ニ其意見書ヲ會計検査院長ニ送附ス而シテ若シ大藏省ノ意見會

計検査院長ノ意見ト衝突スルトキハ庶民院ノ決算委員之ヲ判定シ最終ニ於テ庶民院ハ委員ノ報告ニ就テ可否ヲ決スルモノトス

決算委員ナルモノハ國家ノ歲入出全體ヲ庶民院監督ノ下ニ致シ或ハ財政處分ニ於ケル非行ヲ指摘シ又其救治方法ヲ告知シ更ニ進シテ國庫金ノ收支ヲ委任セラレタル官廳間ノ決算總體ヲ審査シ之ニ關スル委員會ノ意見ヲ議院ニ報告スル等ノ事項ニ關シテ實ニ必要缺ク可カラサルモノナリ

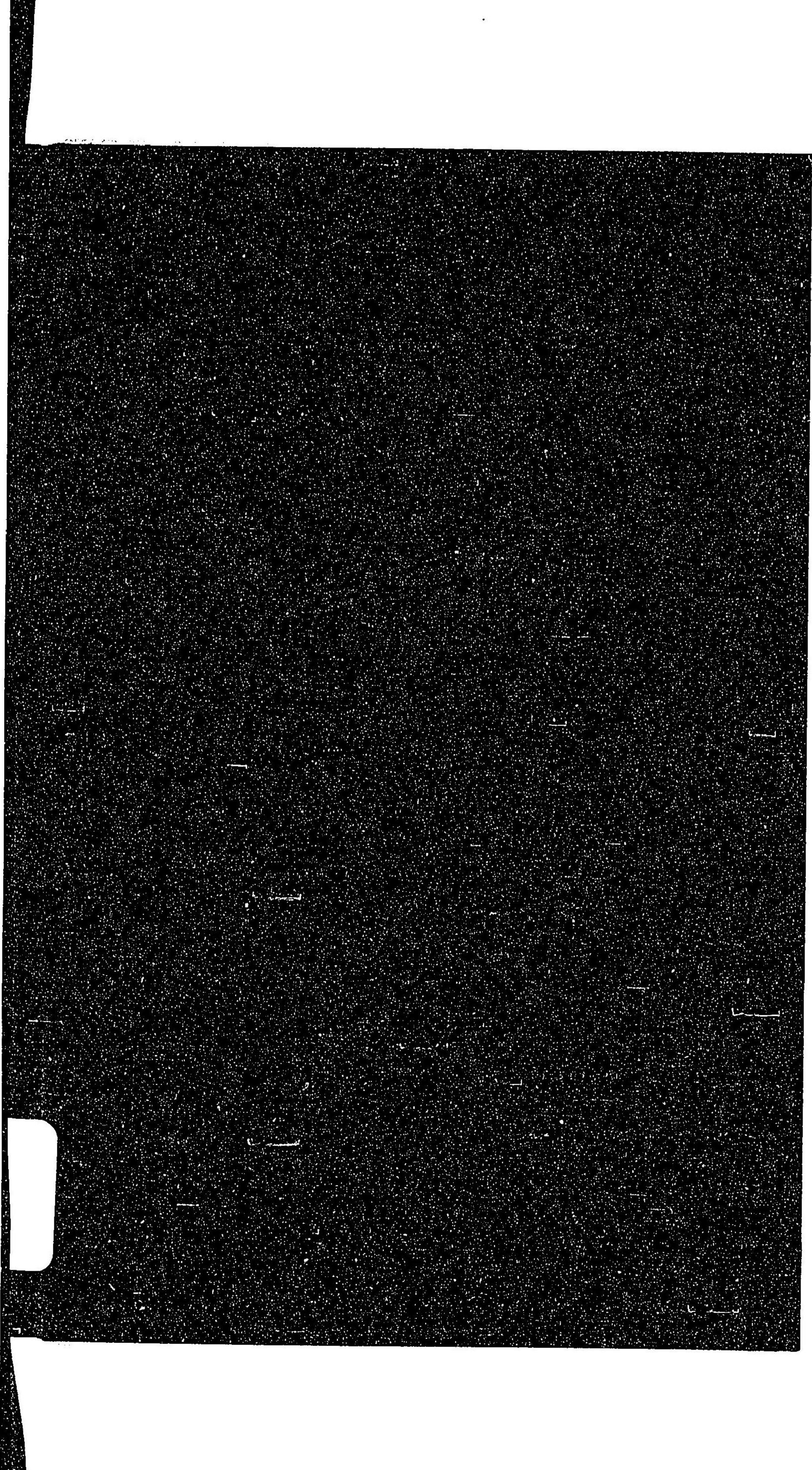
政府カ委員會ト共同一致ノ働チナスハ委員會ノ事業ニ便益ヲ與フルコト大ニシテ其實用尠ナカラスト雖モ決算委員ノ審査ハ各年度ノ決算ニ限り現在ノ費用ニ干渉スルコト能ハサルヲ以テ未タ財政事項ニ於ケル議院ノ權力ヲ確定スルニ足ラスト非難スルモノアレトモ一般ノ財政家ハ此委員會ヲ以テ國庫金ニ於ケル議院監督ノ制度ヲ全フスルノ趣旨ニ適合シ能ク議院政治ノ原理ニ協ヒタル所ノ制度ニシテ所謂委員會ノ審査ニ因リ庶民院カ國庫金決算ノ迅速有効ナル審査ヲ遂クル最良ノ保證ヲ與フルモノナリトナセリ

憲法講義終



14
218





14

248

031717-000-9

14-248

帝国憲法

長島 鷺太郎/述

M28?

BBE-0344



14

218

修身學校  
帝國憲法  
長島教育會  
發行

